



## 点字毎日 時代小説の盲人を紹介 大阪の高林正夫さんが出版 「名もなき庶民に感じる優しさ」

2021年1月24日 10時00分 (最終更新 1月24日 10時00分)

盲人が登場人物の時代・歴史小説をまとめた著書を大阪府に住む高林正夫さんが出版した。音声デジター版がサピエにあり、点訳版は、鹿児島県視聴覚障害者情報センターから3月末にアップされる予定だ。

タイトルは「異風の人」（本の泉社）。単行本264ページ。2420円（税込み）。「丹下左膳」や「盲目剣術（こだま）返し」など著名なものからあまり知られていない作品まで30作を、全盲の高林さん（72）がユニークに論評している。

中途失明の高林さんは、大阪市立盲学校（当時）の小学部で勤務していた時、同校に残る資料で盲人が登場する小説への関心が高まった。その後、サピエや図書館への音訳依頼などで原本を読んだ。18年には、近現代の作家が視覚障害者を描いた作品から「音でみる心も色も」をまとめている。

高林さんは「名もなき庶民らいろいろな盲人がいて、優しさや温かさを感じる」と話す。「幸せ」をテーマに盲人が出てくる国内外の名作について書く構想も温めているという。【佐木理人】